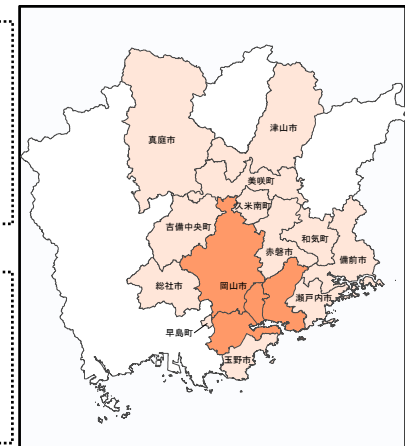


圏域形成に至った経緯

- 当該圏域は畿内と並んで**古代に一大勢力を誇った吉備の国**に含まれており、その後、備前、備中、美作等に分国
- 岡山市中心部は戦国時代後期から江戸時代にかけて城下町として栄えるとともに、山陽道（西国街道）、津山往来等の街道や旭川、吉井川等の舟運を通じて**近隣地域と深く結び付きながら相互に発展**
- 明治以降の人口増加局面を経て、近年では少子高齢化が進む中、圏域の持続可能な発展を図るため、平成28年10月に岡山市が近隣7市5町と連携協約を締結し、**県人口の過半(110万人超)を占める岡山連携中枢都市圏を形成**



今後の展開

- これまでの連携事業の成果や圏域の社会動態、新型コロナに伴う環境変化等を踏まえながら、令和4年度からの**第2期岡山連携中枢都市圏ビジョンの策定**に向けて、近隣圏域との圏域間連携等を含む更なる取組を検討
- 指定都市において大都市制度に関する議論が進められている中、市民、圏域住民、県民等のマルチスケールでメリットを見出すことのできる**大都市制度と広域連携の融合のあり方についても検討**

圏域全体の経済成長のけん引

食品製造業見本市への共同出展

圏域内の食品製造業の商品を一括的に情報発信して**新たな販路開拓**を目指すため、首都圏で開催される食品製造業見本市に共同ブースを出展

※ 圏域内の5市17社が出展(R2.2)



【食品製造業見本市】

圏域内周遊に向けた歴史・文化資源発信

日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」をテーマとした体験プログラム等を実施することで、**圏域内を周遊する観光客や滞在時間の増加を促進**

※ 圏域内観光入込客数 16,687千人(H26)→18,287千人(R1)



【プログラムブック】

その他

ゼロカーボンに向けた圏域連携

2050年に二酸化炭素の排出を実質ゼロにすることを目指す「**ゼロカーボンシティ宣言**」を**圏域内の市町が共同で実施**(R3.2)

圏域内市町や商工会議所、大学等で構成する「**ゼロカーボン研究会**」を**新たに設置**し、圏域内の環境と成長の好循環に向けた具体的な取組を検討(R3.6~)



【首長による共同宣言】

圏域全体の生活関連機能サービスの向上

圏域への移住促進

圏域への移住促進に向け、希望者の仕事マッチングなどをより身近に相談できるよう、「**おかやまぐらし相談センター**」を**東京・大阪に開設**(R3.6)



【特設HPのロゴ】

市町間の生活交通確保

岡山市と玉野市との間での**デマンドタクシー**の運行、吉備中央町との間での**バス路線の再編**など、**圏域内の市町をまたがる生活交通を構築**



【デマンドタクシー】

圏域内の公共施設最適化

圏域内の一般廃棄物処理施設(3箇所)を統廃合して**広域処理施設を整備**(R9稼働予定)するとともに、焼却熱で発電した電力の庁舎等での活用を検討
圏域内の火葬場(2箇所)を統廃合して**広域火葬場を整備**(R7稼働予定)

岡山芸術創造劇場を活用した文化連携

文化力向上による圏域活性化に向けて、文化芸術分野の活動・交流・発信の場として**岡山芸術創造劇場**を岡山市が**整備**(R5開館予定)



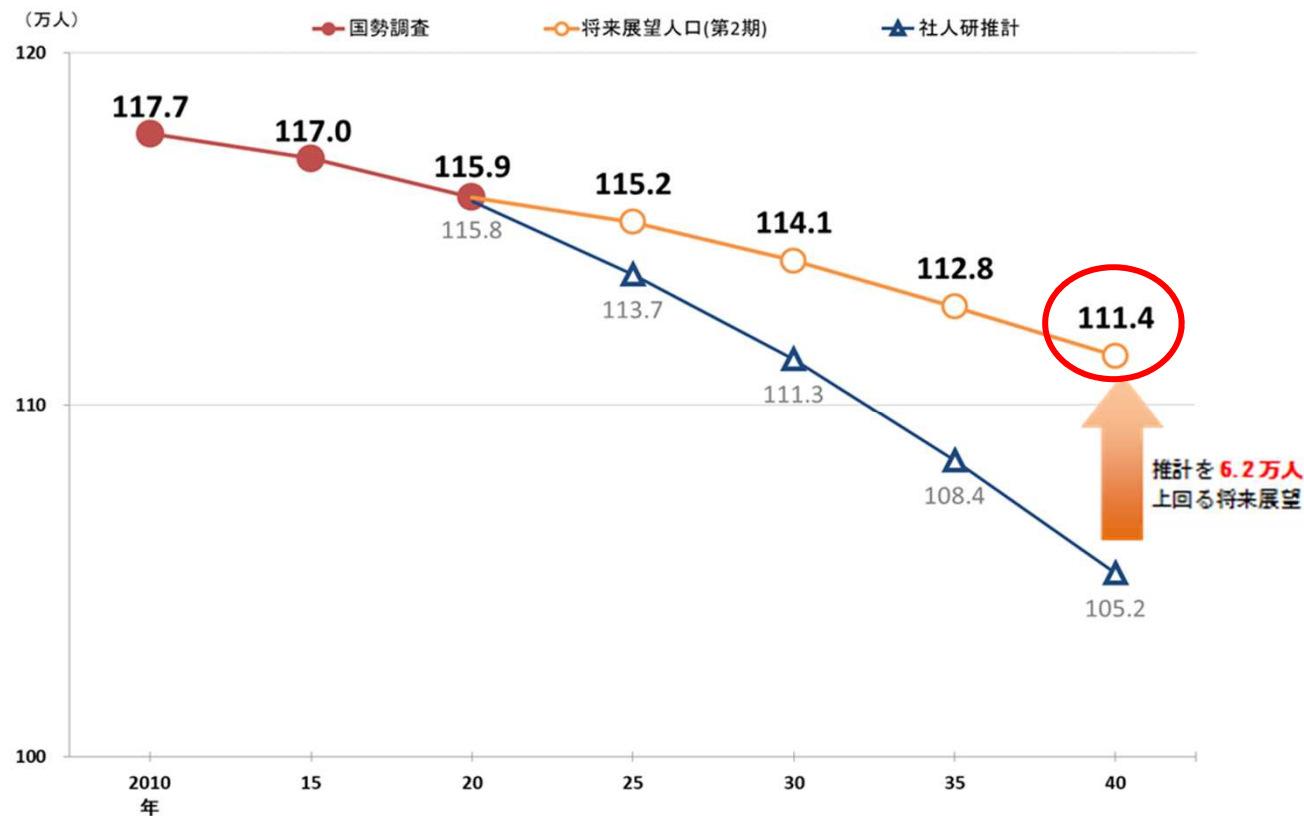
【劇場イメージ】



【プレイベント】

圏域の将来展望人口の引上げ

- 社人研の2013年推計では圏域人口が2020年に113.6万人にまで減少することが見込まれていたのに対して、2020年の国勢調査では115.9万人となっており、**推計に対して実績が2.3万人も上回る結果**となっている。
- 一方、社人研の2018年推計では圏域人口が2040年に105.2万人にまで減少することが見込まれている。
- 2020年の実績が推計を上回ったことや連携事業を今後さらに拡充していくことなどを踏まえ、第2期のビジョンでは**2040年に111.4万人の圏域人口を維持**することを将来展望とする。(第1期のビジョンでは109.2万人)



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」
圏域内各市町人口ビジョン

第2期ビジョンにおける主な取組の方向性

視点

主な取組の方向性

○ 経済成長の持続

圏域の総生産は概ね増加傾向
43,850億円(2014)→46,970億円(2018)
→ 経済成長を持続するための1つの手法として、新たな市場を開拓するスタートアップ企業の創出を促す取組が必要

スタートアップ企業支援

岡山市のスタートアップ支援拠点を活用し、圏域全体でスタートアップ企業を支援する。

○ 高次都市機能の強化

まちを楽しむキーワードに岡山市中心部のまちづくりが進展
→ 岡山芸術創造劇場を含む高次都市機能をさらに高める取組が必要

市街地再開発事業の促進

高次都市機能を持つ市街地再開発事業を促進する。

○ 移住定住施策等のさらなる推進

・圏域人口の減少
117.0万人(2015)→115.9万人(2020)
→ 移住・定住の取組の充実が必要
・圏域の外国人住民が増加
(2019年の人口動態は1,854人の増加)
→ 共生社会の構築に向けた取組が必要

移住促進連携

移住者ニーズに対応するため、「おかやまぐらし相談センター」等の取組を充実しつつ継続する。

外国人コミュニケーション支援

外国人住民のコミュニケーション支援や行政情報の提供に関する課題を解決する。

○ 気候変動対策の取組の深化

平成30年豪雨災害の発生
→ 適応策を含めた気候変動への対策が必要

気候変動対策

ゼロカーボン研究会を継続し、共同で地球温暖化対策事業に取り組む。

風水害対応力の向上

圏域で訓練や啓発活動を実施し、風水害への対応力向上を図る。

○ 行政サービス提供体制の最適化

将来における人材不足等の資源制約
→ 圏域内の市町等の行政サービス提供体制の効率化が必要

行政サービスの効率化・利便性向上

RPAの利用等デジタル技術活用手法を圏域内で共有する。

○ 近隣圏域との圏域間連携

高梁川流域連携中枢都市圏とは、様々なつながりがあり、共通課題も存在
→ 両圏域のつながりをさらに深める取組の検討が必要

圏域間連携

観光等の分野を端緒として、圏域間連携に取り組むことで、連携事業をより効果的に推進する。